

大豆近況 VOL.172

関係部署にご回覧ください。

団体会員
 一般会員 各位
 賛助会員
 協賛企業

令和5年 4月 5日
 一般財団法人 全国豆腐連合会

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

3月のシカゴ相場(2023年5月限)は、\$14.90/ブッシェル近辺から始まり、最終的には月初よりも若干高騰し、\$15.10/ブッシェル程の引けという月となりました。

米国農務省が3月8日に発表した、2022/2023年度の米国大豆需給報告の詳細は下記表のとおりとなっております。

2022/23年度 米国産大豆 需給表

項目 / 発表月	①		②	
	2023年2月	2023年3月	②	①
作付面積 (百万エーカー)	87.50	87.50	0.00	
収穫面積 (百万エーカー)	86.30	86.30	0.00	
差異 (百万エーカー)	1.20	1.20	0.00	
収穫率 (%)	98.63	98.63	0.00	
単収 (ブッシェル/エーカー)	49.50	49.50	0.00	
期初在庫予想 (百万t)	7.46	7.46	0.00	
生産量 (百万t)	116.38	116.38	0.00	
輸入量 (百万t)	0.41	0.41	0.00	
総供給量 (百万t)	124.27	124.27	0.00	
搾油用 (百万t)	60.69	60.42	-0.27	
輸出 (百万t)	54.16	54.84	0.68	
種子用 (百万t)	2.78	2.78	0.00	
その他 (百万t)	0.49	0.52	0.03	
総需要量 (百万t)	118.12	118.53	0.41	
期末在庫 (百万t)	6.12	5.72	-0.41	
在庫率 (%)	5.18	4.82	-0.36	
農家平均価格 (\$/bu)	14.30	14.30	0.00	

供給面は先月と変わりなく総供給量は124.27百万トンとなりました。需要面は搾油用が下方修正、輸出・その他が上方修正となり総需要量は118.53百万トンで、先月比0.41百万トンの上方修正となりました。結果、期末在庫は5.72百万トン、先月比0.41百万トンの下方修正となりました。この結果は相場にとって強材料となりました。

3月31日に3月1日時点の米国穀物四半期在庫及び2023年産作付意向面積が発表されました。詳細は下記の通りとなっております。

<四半期在庫報告>

USDA 23年3月1日時点 在庫数量 (百万ブッシェル)

	2023年3月1日	市場予想平均	予想レンジ	2022年3月1日
大豆	1,685	1,742	1,600-1,910	1,932
コーン	7,401	7,470	7,240-7,830	7,758
小麦	946	934	891-1,020	1,029

USDA 作付意向面積 (百万エーカー)

単位： 百万エーカー	2023年産 作付意向面積	市場予想平均	予想レンジ	USDA 2月 Outlook	2022年産 作付面積
大豆	87.50	88.24	87.35-89.62	87.50	87.45
コーン	92.00	90.88	87.68-92.05	91.00	88.58
小麦	49.86	48.85	45.74-49.95	49.50	45.74

四半期在庫に関してですが、大豆は市場予想平均1,742百万ブッシェルに対して、1,685百万ブッシェルと市場予想平均よりも57百万ブッシェル低い結果となりました。なお、前年同時期が1,932百万ブッシェルですので、前年よりも在庫が少ない状況です。また2023年産作付意向面積に関して、大豆は市場予想平均88.24百万エーカーに対して、87.50百万エーカーと0.74百万エーカー低い結果となりました。2022年産は87.45百万エーカーでしたので、2022年産と同程度ということがわかります。一方でコーンに関しては市場予想平均よりも高い結果となりました。これらの発表は大豆相場に関しては強材料となりました。

また、2022/2023年度の世界大豆需給報告の詳細は下記表のとおりとなっております。

2022/23 世界の大豆 需給表

項目 / 発表月		① 2023年2月	② 2023年3月	② - ①
世界大豆需給	期初在庫予想 (百万t)	98.83	99.00	0.17
	生産量 (百万t)	383.01	375.15	-7.86
	輸入量 (百万t)	164.07	165.39	1.32
	国内搾油用 (百万t)	323.90	320.04	-3.86
	国内消費 (百万t)	376.41	371.13	-5.28
	輸出 (百万t)	167.47	168.40	0.93
	期末在庫 (百万t)	102.03	100.01	-2.02
	在庫率 (%)	27.11	26.95	-0.16
主要輸出国 生産内訳	米国 (百万t)	116.38	116.38	0.00
	アルゼンチン (百万t)	41.00	33.00	-8.00
	ブラジル (百万t)	153.00	153.00	0.00
	パラグアイ (百万t)	10.00	10.00	0.00
中国輸入量 (百万t)		96.00	96.00	0.00

先月比で供給面は期初在庫・輸入量が上方修正、生産量が下方修正となり、需要面では輸出が上方修正、国内搾油用・国内消費が下方修正となった結果、期末在庫は100.01百万トンと先月比2.02百万トンの下方修正となりました。この結果は相場にとって強材料となりました。

現在、ブラジルでは収穫が進んでおります。最新の情報では進捗率は69.1%となっており、昨年

同時期が75.8%ですので、比較すると昨年よりも遅れている状況ではありますが、作柄は良好となっております。一方、アルゼンチン産大豆は、作柄優良割合は4%と低く、また作柄不良割合は67%となっており、昨年同時期が作柄優良割合:35%、作柄不良割合:15%であったことから、昨年よりも非常に厳しい状況であると言えます。このような状況から、収穫量予想は上記需給表のとおり、先月よりも百万トンの下方修正となり33百万トンの予想となりました。ブラジルは収穫の遅れを取り戻し作柄良好、またブラジルの生産量がアルゼンチンの4倍以上と南米全体で考えた場合、アルゼンチンの不作は多大な影響は与えにくいと考えられますが、アルゼンチンの状況が今後も改善されない場合、強材料として相場の高騰に影響を与える可能性があることも否定は出来ません。

南米の大豆を取り巻く環境以外で相場に影響を与える要因として、中国を中心とした世界需要があります。中国需要は、アフリカ豚コレラ(ASF)の再流行に関する報道により、同国の需要回復に懸念が生じている状況です(弱材料)。またロシア・ウクライナの国際情勢等も相場へ影響を与える場合がありますので、引き続き注意が必要と思われます。

北米産大豆の入港状況は、米西海岸からの配船は安定して来たものの、大豆産地である中西部からの貨車輸送は相変わらず不安定な状況です。また、海上運賃はピークを脱してきていますが、依然として高値で推移しています。

○為替相場

3月の円相場は、1ドル135円前半から始まりました。しばらくは大きな変動はありませんでしたが、3月10日、米シリコンバレーバンクが米債券安、金利高の影響で経営破綻し世界の銀行株が売られ、13日には暗号資産(仮想通貨)企業への融資が多いシグネチャーバンクの経営破綻も報じられ、1ドル133円前半まで円高が進みました。これらの事象を発端に24日には1ドル130円後半まで更に円高となりましたが、29日に3月度のリッチモンド連銀製造業指数・消費者信頼感指数の発表が市場予想を上回ったことで米景気の底堅さが改めて認識され、米債券売りが進み長期金利が上昇、最終的には1ドル=132円後半で引けという月になりました。米国のインフレ状況・政策金利の動向等により、今後も為替は大きく変動し易い状況であり、他国の情勢だけではなく日本銀行の金利政策の方針にも注視する必要があります。

○国産大豆

令和4年産国産大豆の初回の入札会が2023年3月15日(水)に行われました。結果は次ページの通りとなっております。(「-」は前月に上場されていないため、比較対象が無いという意味になります。)

令和5年3月の入札取引結果(普通大豆)

産地	粒別	品種銘柄	上場数量 (60kg俵数)	落札数量 (60kg俵数)	平均落札価格 (円/60kg)	前月との比較	
						2月 平均落札価格 (円/60kg)	3月 - 2月 平均落札価格 (円/60kg)
北海道	大粒	とよまさり	29,370.0	28,875.0	10,224	10,272	-48
	中粒	とよまさり	1,650.0	1,650.0	9,884	9,800	84
	小粒	スズマル	660.0	165.0	9,000	-	-
	小粒	ユキシズカ	6,105.0	4,455.0	8,439	8,407	32
	極小粒	ユキシズカ	165.0	165.0	10,000	9,000	1,000
		その他	330.0	330.0	8,010	8,300	-290
岩手	大粒	リュウホウ	1,650.0	1,650.0	9,808	10,039	-231
	大粒	シュウリュウ	330.0	330.0	9,175	9,700	-525
宮城	大粒	ミヤギシロメ	495.0	495.0	11,757	-	-
	中粒	ミヤギシロメ	330.0	330.0	11,410	-	-
	大粒	タチナガハ	990.0	990.0	10,685	-	-
秋田	大粒	リュウホウ	107.5	-	-	10,600	-
	中粒	リュウホウ	1,212.5	1,155.0	9,156	9,802	-646
山形	大粒	里のほほえみ	1,650.0	1,650.0	9,530	9,588	-58
	大粒	リュウホウ	495.0	495.0	8,617	8,030	587
	中粒	リュウホウ	330.0	330.0	8,835	9,367	-532
	大粒	エンレイ	330.0	330.0	10,200	10,010	190
	中粒	エンレイ	660.0	660.0	9,700	10,020	-320
福島	大粒	里のほほえみ	165.0	165.0	8,200	-	-
茨城	大粒	里のほほえみ	2,970.0	2,145.0	9,405	10,031	-626
	小粒	納豆小粒	1,155.0	-	-	-	-
	極小粒	納豆小粒	330.0	-	-	-	-
栃木	大粒	里のほほえみ	1,431.5	1,155.0	9,456	9,232	223
	中粒	里のほほえみ	53.5	-	-	-	-
千葉	大粒	フクユタカ	330.0	330.0	9,720	-	-
	中粒	フクユタカ	330.0	330.0	8,820	-	-
新潟	大粒	里のほほえみ	1,155.0	1,155.0	9,356	9,230	126
	大粒	エンレイ	165.0	165.0	11,520	10,740	780
	中粒	エンレイ	330.0	330.0	8,960	10,040	-1,080
福井	大粒	里のほほえみ	330.0	330.0	9,515	9,700	-185
長野	大粒	ナカセンナリ	825.0	825.0	8,578	8,480	98
	中粒	ナカセンナリ	660.0	660.0	8,835	8,683	153
		その他	165.0	165.0	7,010	-	-
岐阜	大粒	フクユタカ	990.0	990.0	11,163	10,593	570
	中粒	フクユタカ	1,485.0	1,485.0	9,320	10,030	-710
		その他	165.0	-	-	-	-
愛知	大粒	フクユタカ	330.0	330.0	13,030	12,003	1,028
	中粒	フクユタカ	2,145.0	2,145.0	9,595	10,160	-565
三重	大粒	フクユタカ	330.0	330.0	9,745	8,545	1,200
	中粒	フクユタカ	165.0	165.0	9,300	-	-
滋賀	大粒	オオツル	495.0	495.0	9,737	9,880	-143
	中粒	オオツル	165.0	165.0	9,070	9,030	40
	大粒	ことゆたか	990.0	990.0	9,717	10,031	-315
	中粒	ことゆたか	165.0	165.0	9,010	-	-
	大粒	フクユタカ	495.0	495.0	11,447	10,853	593
	中粒	フクユタカ	660.0	660.0	10,150	10,040	110
山口	大粒	サチユタカ	660.0	660.0	9,483	-	-
	中粒	サチユタカ	165.0	165.0	10,380	-	-
福岡	大粒	フクユタカ	165.0	165.0	13,020	13,415	-395
	中粒	フクユタカ	330.0	330.0	12,070	11,968	103
	大粒	ちくしB5号	165.0	165.0	13,510	-	-
	中粒	ちくしB5号	165.0	165.0	12,070	-	-
		その他	825.0	825.0	9,652	10,940	-1,288
佐賀	大粒	フクユタカ	165.0	165.0	13,600	13,953	-353
	中粒	フクユタカ	330.0	330.0	12,540	12,230	310
		その他	330.0	330.0	9,240	8,847	393
熊本	大粒	フクユタカ	330.0	330.0	13,145	-	-
	中粒	フクユタカ	330.0	330.0	11,640	-	-
		その他	330.0	330.0	9,640	-	-
全国			70,125.0	64,515.0	9,926	10,057	-132

前月と比較すると、全国平均は¥9,926/60kgと約¥130/60kg下がり、¥10,000/60kgを切る結果となりました。北海道産とよまさり系は先月と比較すると、ほぼ変わらず¥10,000/60kgを超える高値水準を維持しております。また、ユキシズカに関して小粒は先月と比べほぼ変わらず、

極小は¥1,000/60kg 上昇しております。東北地方の大豆に関しては、全体的に先月よりも価格が下がった結果となりましたが、今回の入札より上場した宮城県産大豆はいずれの品種も ¥10,000/60kg を超える高値となっており、他の東北産大豆とは違った落札結果となりました。フクユタカ品種の大粒は東海産がいずれも先月よりも価格が上昇した反面、九州産はいずれも下落といった結果となりました。中粒は逆に先月と比べると東海産は下落、九州産は上昇、大粒は ¥11,000/60kg 以上の価格となっており、依然として人気の高い品種であることが分かります。

2023年3月10日に日本特産農産物協会より、同年1月末時点の令和4年産集荷見込数量について、下記詳細のとおり約11,000トンの下方修正が発表されました。

国産大豆 集荷見込み(2023年1月末時点)

単位：トン

地区	3年産 集荷実績 ①	4年産 生産計画 ②	4年産 集荷計画 (10月末)③	4年産 集荷見込み (1月末)④	3年産 実績対比 ⑤=④/①	4年産生産 計画対比⑥ =④/③
北海道	70,125	69,000	70,600	70,300	100%	100%
東日本	63,677	62,500	53,500	52,600	83%	98%
西日本	30,194	32,900	31,200	29,800	99%	96%
九州	17,517	33,900	29,500	20,900	119%	71%
合計	181,512	198,300	184,800	173,600	96%	94%

原因は、西日本および九州地区の播種時期の干ばつ、夏場の日照不足による小粒化傾向がみられ、調製の過程で品位に適合する割合が減少するためとのことです。この結果を踏まえて、下記4品種の収穫後入札上場計画数量の下方修正がなされました。

- ・石川県産里のほほえみ 変更前 360トン → 変更後 210トン
- ・福岡県産フクユタカ 変更前 3,130トン → 変更後 380トン
- ・福岡県産ちくし B5号 変更前 300トン → 変更後 40トン
- ・佐賀県産フクユタカ 変更前 2,430トン → 変更後 270トン

3月の入札実施前に、こちらの方修正が発表されたため、入札平均価格は上昇するものと予想しておりましたが、先月よりも下落した結果を踏まえて、仮に11,000トンが減った場合でも、需給のバランスが均衡している可能性が有り、今後の落札価格の変動は緩やかな動きとなるかもしれません。

次回、第五回の入札会は2023年4月12日(水)実施予定となっており、約6,000トンの上場が予定されております。11,000トンの下方修正が今後どのような影響を与えるかを継続して注目すべきと考えております。

以上

